

はい けい 背景

がいこくじん いっしょ せいかつ しゃかい
外国人と一緒に生活する社会をつくるためには、生活で困っている外国人が長く住み続けて
のうりよく ひつよう
能力をだせるようにサポートする必要があります。

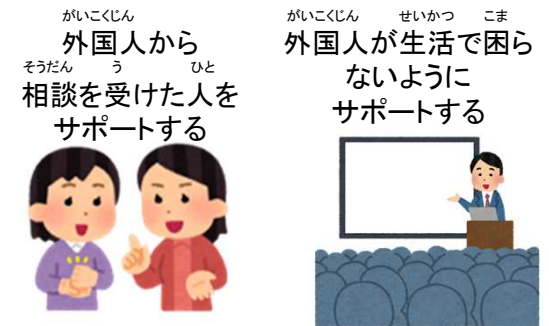
がいこくじん いっしょ せいかつ しゃかい
外国人と一緒に生活する社会をどのようにつくるかというロードマップをもとに、外国人支援コーディネーター
ようせい けんしゅう ねん ど かんが ねん ど がいこくじん し えん
を養成するためにどんな研修をするかを2023年度に考えました。そして、2024年度から外国人支援コーディ
ネーターを育て、専門家として認めたりすることを行います。



がい こく じん し えん 外国人支援コーディネーターとは

せいかつ こま ちゅう がいこく じん ちゅう たい
生活で困っている(注1)外国人(注2)に対するサポートについて詳しく知っている人です。
そう だん う じょうず ぎじゆつ て っだ あいて れんらく と
相談を受けて上手にサポートする技術をもって、サポートを手伝ってくれる相手と連絡を取ったりしながら
もん だい かい けつ ちゅう がいこく じん せい かつ こま じょうほう つた
問題を解決していきます(注3)。また、外国人が生活で困らないように情報を伝えます。

- ちゅう まいにち せい かつ しゃかい せい かつ はたら こま
(注1) 毎日の生活、社会での生活、また働くときの困りごとのことです
ちゅう くに ひと かんけい がいこく も ひと ふく
(注2) どの国の人かに関係なく、外国にルーツを持つ人を含みます
ちゅう そう だん ひと じぶん すず こま かい けつ たす ふく
(注3) 相談する人が自分から進んで困っていることを解決できるように助けることを含みます



よう せい けん しゅう う ひと 養成研修を受ける人※

いま くに と どう ふ けん し く ちよう そん やく しょ
今、国、都道府県や市区町村の役所、またはそのどれかの依頼を受けた機関が運営する外国人のための
そう だん まど ぐち そう だん う ひと はたら ひと そう だん う しごと いって い き かん おこな
相談窓口で、相談を受ける人として働いている人です。そして、その相談を受ける仕事を一定期間行ったことが
ある人です。

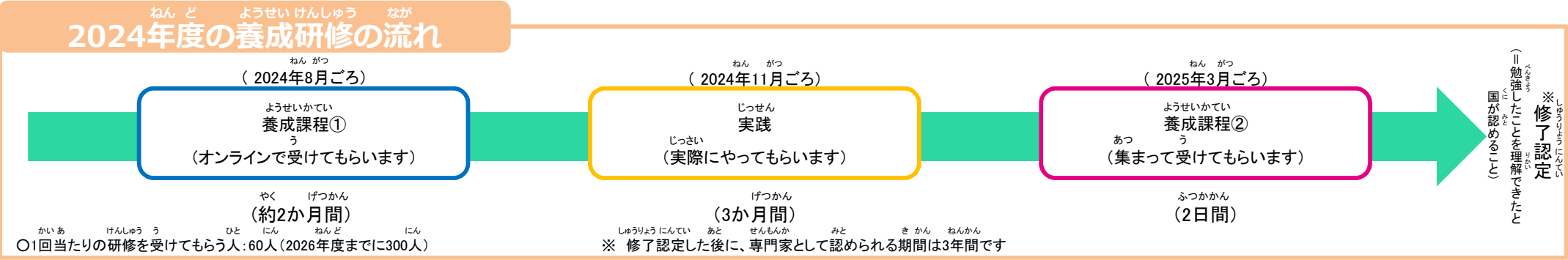
ようせい けんしゅう う ひと がいこく ひと ふく くに ひと と
※養成研修を受ける人には、外国の人も含められることがあるので、どの国の人かは問いません。

けんとう けっか ほう こく しょ
検討結果報告書はこちら



https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/04_00038.html

外国人支援コーディネーターの養成研修の流れ、また2024年度以降にやること



養成課程①（オンラインで受けてもらいます）

○養成研修で覚える必要のある基本的な知識と技術について、オンラインの動画で先生の話聞く（60コマくらい）

項目	養成研修で覚える必要のある知識と技術
A	外国人支援コーディネーターを取り入れる大切さ
B	外国人の在留状況<日本でどのような許可を受け、どのような生活をしているのかなど>を正しく理解するために必要な知識
C	外国の文化や考えを理解するために必要な知識
D	外国人からの難しい相談をうまく解決できるようにするために必要な知識と技術
E	困っている外国人がサポートをすぐに受けることができるようにするために必要な知識

実践（実際にやってもらいます）

○「養成課程①」で覚えた基本的な知識と技術を使って問題をどのように解決するのかを考えます（注）（研修を受けている人の職場で行います。）

（注） 職場の上の立場の人や講師（教える人）たちと相談しながら設定した課題をやります

○何をしているかの報告

○課題レポート

養成課程②（集まって受けてもらいます）

○「例えばこんなことが起きたらどうするか」を考えます・何人かで話し合います

○修了認定テスト（勉強したことが理解できたかどうかを確かめます）

2024年度以降にやること

○専門的な知識を持った人を認める制度をどうするかを考える

○専門的な知識への良い評価や待遇<給料や休みが増え、立派な仕事と認めてもらうなど>を受けるための方法を考える

○研修を終えた人たちが事例研究会<こんなときはどうするかを考えたり学んだりする集まり>を開く

○外国人に安心して来てもらうことができるようにする方法を考える

○外国人支援コーディネーターの活動を知らせる

○養成研修の内容や方法などの評価がこのままでよいのか、どう直すかについて考える

○講師の人数を考えて、養成研修を受ける人数や働く場所を増やすことについて考える

○資格の有効期間を長くするための研修をどうするか